

高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するために ～冬季流行期の前に万全な対策を実行しましょう！～

想定される感染経路は？

本年1月から2月に宮崎県及び岡山県で発生した高病原性鳥インフルエンザについて調査を行ってきた国の感染経路究明チームが、この度、調査結果をとりまとめた報告書を報告しました。

報告書の要約は次のとおりです。

1 感染源・感染経路

(1)国内へのウイルスの侵入

宮崎県と岡山県の発生農場から分離されたウイルスは、鳥インフルエンザH5N1亜型ウイルスであり、①近年、中国、モンゴル、韓国において分離されたウイルス、②昨年末に韓国の野鳥から分離されたウイルス、③本年1月4日に熊本県で捕獲された野鳥のクマタカから分離されたウイルスといずれも相関性が高いことや海外の事例などから、国内へのウイルスの侵入は、海外からの渡り鳥により持ち込まれた可能性が想定された。

(2)農場内へのウイルスの侵入

発生農場における野鳥や野生生物の侵入防止対策は必ずしも十分ではなく、また、農場内で初めに死亡鶏が確認された場所については、外部からのヒナの導入や人の作業動線との関連が確認されなかったことなどから、農場へのウイルスの侵入は、人為的な原因によるものではなく、野鳥や野生動物により持ち込まれた可能性が想定された。

2 まとめ

感染経路をさらに検討するためには、野鳥の継続的なモニタリングや早期の現地調査が必要。今後、養鶏場の発生予防対策をより確実に行うため、野生生物等の侵入防止対策の強化、養鶏場の飼養衛生管理の実施状況の再チェックを行うなど、バイオセキュリティ対策の徹底に関係者が一体となって取り組むことが重要である。

防疫講習会で習得！

冬季流行期をひかえて早急に各農場が鶏舎内へのウイルス侵入防止対策を実施することが必要なことから、新潟県と共催で10月4日、全農にいがた県本部ビルにおいて高病原性鳥インフルエンザ防疫講習会を開催しました。講師には、家畜ウイルス病の専門家である北海道大学大学院獣医学研究科の迫田義博先生をお招きし、「高病原性鳥インフルエンザ防疫強化緊急対策事業」の一環として作成されたテキストに沿って、明快なご講演をいただきました。

養鶏生産者等の講習会出席者は、高病原性鳥インフルエンザウイルスの生存性・抵抗力、各種消毒薬の特性と使用上の留意点、野鳥・野生生物の生態等の基礎知識に立った発生予防のための具体的・効果的な手法について習得することができ、きわめて有意義な一日となりました。

養鶏場の具体的侵入防止対策

- ①農場周囲のフェンスや鶏舎の防鳥ネットの張り方など鶏舎施設の保守・点検
- ②作業や飼料・器材の運搬による人・物品・車両の動線や野生生物による伝播の可能性を踏まえた消毒の措置
- ③衛生的な飼料や給与水を確保するための飼養衛生管理の徹底
- ④鶏舎内外における衛生害虫（ネズミなど）の駆除
- ⑤鶏糞の適切処理と場内外の整理・整頓・清掃

今後は、各自で農場の飼養衛生管理をチェックして、未実施の対策については速やかに実行に移してください。飼養鶏群の観察を厳重に行い、異常鶏の早期発見にも努めてください。